

活発化後、最大揺れ

箱根町で震度2



箱根山・大湧谷周辺で通行止めとなった道路の地図を見詰める外国人観光客
＝10日午後、神奈川県箱根町

噴火警戒レベルが2(火口周辺規制)に引き上げられている箱根山(神奈川県箱根町)は10日、火山性地震が依然として多く、火山活動が活発な状態だ。午後6時7分ごろに箱根町で震度2の地震を観測するなど、体を感じる地震が相次いだ。(20面に関連記事)

気象庁によると、震度2の地震の規模はマグニチュード(M)3.1と推定さ

れ、火山活動が活発化した4月26日以降で最大とみられる。震源の深さはごく浅い。

箱根山周辺での体を感じる地震は、5日に震度1を3回観測して以来。

気象庁は、火口と想定する大湧谷周辺で小規模な水蒸気噴火の恐れがあるとして、警戒を呼び掛けている。

10日は午後9時までに、体を感じる地震を含め24

6回の火山性地震を観測。1日の回数としては、4月26日以降で最多だった5月5日の11回を大きく上回った。

1日ごとの回数は増減を繰り返しており、5月6、7日は10回程度まで少なくなったが、8日4回、9日92回と増加傾向だった。

大湧谷での蒸気の噴出や火山活動に伴う地殻変動も続いている。マグマや熱水が移動した際の震動を示す火山性微動の観測はない。

気象庁は、箱根山について5月3日、火山活動が活発になってきたことを示す「解説情報」を初めて出し、6日には噴火警戒レベルを1(平常)から2に引き上げた。

にぎわう観光地
GW明け初の日曜
ゴールデンウィーク明け初の日曜日となった10日、噴火警戒レベルが引き上げられた箱根山の地元・箱根湯本駅前(神奈川県)の商店街は観光客でにぎわっ

京の防空壕記録に



第2次世界大戦中、空襲に備えて京都市内の多くの家庭につくられた「防空壕」の実態を明らかにしようと、京都の研究者や1級建築士ら3人のチームが調査を進めている。戦後70年がたち、町家などに残っていても埋められてしまつケースが少なくないうえ、私有地にあつたため、全体的に記録されていない。遺構の実測やヒアリングを重ねる3人は「市井の人たちに関わる戦争記憶をきちんと伝えていきたい」と話し、情報提供を募っている。

京大研究員・建築士ら調査



戦時中に「防空壕」として使われた地下室で、所有者から話を聞く江口さん(左)と小出さん(中央)＝京都市下京区。調査対象の一つ、中京区の民家の床下に残っている「防空壕」(小出さん提供)

京都大・日本学術振興会特別研究員の江口久美さん(32)と1級建築士の小出純子さん(49)、京都大研修員の河野康治さん(41)の3人。昨年、京都市の歴史的建造物の保存・活用にあたる「文化財マネージャー(建造物)の育成講座」で、町家に防空壕が残っていたり、かつて多くの家にあつたりしたことを知ったのがきっかけだ。

防空壕は空襲時に、一時的に待避する場として位置づけられていた。コンクリート造りの頑丈なものだけでなく、家庭用の場合は簡易待避所」と分類され、床下などに穴を掘って設けられた。

小出さんは、町家の改装工事で防空壕が見つかったも重要視され

防空壕 空襲を想定し、防火活動にあたる前の待避場所。京都では「家庭防空指針」(1941年7月)京都市や「簡易防空壕指導要領」(同年8月、京都府警察部)といった冊子がまとめられ、各家庭に配布された。特に中京区や下京区など人家が密集していた地域で推奨されたといわれる。

コーヒーも百薬の長?

「コーヒーを1日3〜4杯飲む人は、ほとんど飲まない人に比べて心臓や脳血管、呼吸器の病気で死亡する危険性が4割ほど減るとの研究結果を、国立がん研究センターや東京大などの研究チームが10日までに公表した。

がんによる死亡との関連は見られず、全ての死亡の危険性が比較

1日数杯で病死リスク減 東大などチーム
すると24%減だった。

1990年代に10都府県に住んでいた40〜69歳の約9万人を2011年まで追跡し、生活習慣と主要な死因との関係を調べた。

コーヒーを飲む量が多いほど死亡の危険性は減り、「1日3〜4杯」と答えた人は、狭心症や心筋梗塞などの心臓病で死ぬ危険性が

「ほとんど飲まない」とした人に比べて36%低かった。脳内出血や脳梗塞などの脳血管病は43%、肺炎などの呼吸器病は40%低かった。

5杯以上飲む人の場合は、数が少なく詳細な分析は困難という。砂糖やミルクを入れるかなど飲み方の違いは考慮していない。チームはコーヒーに含まれる血糖値や血

圧を調整するクロロゲン酸や、血管の健康を保つカフェインの効果と考えられるとしている。

緑茶も1日5杯以上飲む男性は、ほとんど飲まない男性に比べて脳血管病で死ぬ危険性が24%減、呼吸器病で45%減だった。女性には心臓病で死ぬ危険性が37%減った。

胃を調整するクロロゲン酸や、血管の健康を保つカフェインの効果

た。一方で「実際に何か起きているのか心配なので、火山活動に関する情報は必要だ」などと懸念の声も漏れた。

都内から訪れた60代の夫婦は「数年前に来た時の箱根はどことも混んでいて渋滞もしたが、今回は人が少な

い。旅館では「この状況の中で来てくれたのだから大事にしよう」という意識を感じた」と話す。地元で働く40代の男性会社員は「観光に」影響があるとしたらこれからだと思う。早く火山(活動)が収まるのを願っている」と強調した。

大学の友人グループと箱根に到着したばかりという神奈川県藤沢市の大川流風さん(19)は「母親は箱根全体が危ないと心配していた。ニュースを見て危険なのは大湧谷周辺だけだと思

い、来ることにした」と笑顔で話した。

町家に眠る遺構 情報を 全体像不明

ず、埋め戻されることが多いと見聞きした。「何のために防空壕が掘られたのか。存在した意味を考え、語り継ぐことが必要だと感じた」という。

3人は今年1月から、知人の紹介などで市内の個人宅に残る防空壕3カ所を足踏し、所有者から話を聞き、実測をした。また、現存しなくても、かつて防空壕があつたという家の住民4人から思い出や規模などをヒアリングした。

下京区の有隣自治連合会長山田正太郎さん(64)宅では、昭和初期にできた蔵の下にあり、戦時中は防空壕として転用されたという地下室を見せられた。「空襲のサイレンが鳴ったらここに入ると、母親が言っていた」などのエピソードを聞いたうえで、深さや面積などを測って図面化し、写真を撮影した。

今後は、狭いエリアを選定して集中調査をしたり、全市におおまかな分布を把握したりして、防空壕の所在地を地図に記すなど、AIカイフ化を目指す。

都市保全が専門の江口さんは「負の遺産」の防空壕は保全の対象になりにくい、存在したことが忘れられてしまつていないのか。京都のまちの歩みを記録にとどめたい」と意気込む。

3人は防空壕の情報提供や調査協力先を募っている。問い合わせはジェイズ・アトリエ0075(042)15777か、メールbo.ukugou@j-s-atelier.com(日下田貴政)。



台風6号の予報円

11日から風が強い。沖繩地方予想される大瞬間風速は波の高さは6台風は11日、フィリピンに、フィリピン15日北に進

大伸工

猛烈的な台風フィリピンに寄り進んだ。今夜か、12日夜から12日、先島諸島や風域を伴って、あるとしてへの注意を呼ぶ。気象庁によ

長田

詩集「深窓」で知られ、詩論など幅広い論の長田の詩人、来ることにした」と笑顔で話した。

25分、胆管が都杉並区の75歳。福島告別式は近頃喪主は長男。早稲田大在

争のあつた1作を始め、詩刊。65年、詩鮮な旅人」でい思索をシン、幅広

84年の散立の必要が共、評論やエ、さまざま、評論「私の二やNHK相談話をま、「なつかしい書多数。ねい」森の絵本童文学作品も